

東京高連ニュース

発行
東京高齢期運動連絡会
電話：03(5956)8781
fax:03(5956)8782
em:tokyo.koureik@gmail.com
発行人：福井典子

市民・野党共同が

国民健康保険料値上げ 中止を決断

立川市政史上初

立川市の国保料は多摩地域で一番高く、一般会計からの繰り入れは一番少ないという異常な内容でした。今年も新年度の国保料を1人平均2804円(総額1億423万4千円)の値上げを4年連続で提案してきました。衛生会、三多摩健康友の会立川支部は、3月27日に立川市に対して「新型コロナウイルス感染症を拡散させないための短期証の発行」などの要望を行いました。また、昨年から4回にわたって「国民

健康保険料値上げ反対・子ども医療費の引き下げ」を他団体とも協力して市への申し入れを行ってきました。こうした運動と市議会での論戦により、立川市政で初めての「保険料値上げ可決後の中止」という決断を市長にさせる力となりました。

予算議会では、日本共産党、立憲民主党、緑の党が値上げ中止の修正案を共同提案し、審議の中で、自民党からは「予算編成時と経済・景気動向が変わっている。値上げ

は市民生活に直結する。慎重な判断が求められる」。公明党も「市の判断で出る値上げは見送るべきではないか」との質問さえありました。こうした中、自民党、公明党に「値上げ中止の修正案」に対する共同提案を働きかけましたが実らず、市長提案の原案が可決となりました。

しかし、市議会閉会後の3月23日の代表者会議に「4月9日に臨時市議会を開き①国保料の値上げを見送ること ②新

型コロナウイルス関連で、国保への傷病手当支給の枠組みを設ける ③保育料を登園自粛日数に応じた軽減すること」を提案する説明があり、事実上国保料値上げは中止されることになりました。

全国でも国保料の値上げに反対する運動がある中で、高齢期運動連絡会などが共同して粘り強く値上げの中止を市長に迫ったことや、野党共同で予算修正案を提案するという取り組みが、立川市政はじめての「国保料及び

立川健康友の会 新型コロナウイルス 感染症対策について、 地域や健康友の会の 取り組みについて

三多摩健康友の会では、会員や地域住民の外出自粛が続く中、各地域支部が会員さんへの「お元気ですかコール」や要望をお聞きする「アンケート」などを実施し、会員さん

の困難に寄り添い、PCR検査の体制強化を求め、市への要望など、困難な中でも取り組みを進めています。

また、事務局でもマスクを作成し、介護現場や

各支部に届け、体操DVDの作成なども行っています。そして「新型コロナウイルスに負けない。会員の疑問と不安にこたえる」パンフレットを作成し、医療機関や保健所、相談窓口の案内や各種手続きの案内を行っていただきます。また、刻々と状況が変化する中での情報を共有するために「対策メール・ニュース」を発行しています。

地域では、コロナ関連の自治体要望に取り組んでいます。

賦課限度額を改正前の内容に変更する」という決断を市長にさせることにつながりました。



①立川市では、コロナ対策としての国保に関する緊急要望(値上げが中止になる成果)、日野市やあきるの市、桧原村では、マスクや消毒液についての要望や ②コロナに関する情報提供や相談窓口の増設と案内 ③PCR検査の体制強化などの要望を行っています。(日野市ではPCR検査施設の設置回答があり)



地域からの報告

補聴器購入の 助成について

足立高齢期運動連絡会

足立区には、高齢者の“聴こえ”

の問題を解決しようということで『耳の会』（略称）が結成され、集会や他団体の集まり・会議などにも積極的に出かけ運動への理解と援助を訴えるなど、長年活動を続けてきました。

「高齢者への補聴器助成」についても、署名を集め区に対して陳情を繰り返してきました。昨年末から、新たに署名700筆以上集め区への陳情を行いました。

足立区は1月議会の委員会審議の中で「補聴器購入費助成について予算化する」との内容が福祉部の方から次のような説明があり、3月議会で確定しました。



①予算額は1700万円
②助成開始時期は、令和2年7月の予定

③助成対象者
(1)満65歳以上
(2)住民税非課税世帯の方

(3)耳鼻咽喉科専門医の意見書を得られる方

(4)聴力レベル40DB以上
70DB未満の程度難聴の方

④助成内容は、一人1回限り

⑤助成金額は、上限2万5千円

※聞こえが悪くなると、脳は感じたり、考えたりすることが少なくなり、認知機能の低下をまねくと考えられます。

※コミュニケーションが減り社会的な孤立が心配されます。

全都的な取り組みが重要ではないでしょうか。

緊急事態のもとでも交流を 東京高連サイト開設

東京高齢期運動連絡会は、4月23日インターネットサイトを開設しました。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、集まることや人と会うことを避けねばならない中で、高齢者の孤立の危険も深まり、各地域団体の運動の交流もやりにくくなっています。

75歳以上の医療費への2割負担導入反対の課題、年金法改定反対の課題、都立病院公社病院独立行政法人化反対の課題などでも、大規模な集会やデモなどの取り組みは難しい状況です。東京高連では、この状況の中でも、お互いの取り組みを知り合い協力しあうための一助にと考えて、インターネットに東京高連のサイトを立ち上げました。

東京高連の紹介、家からでもできる取り組みの紹介、各団体地域の取り組みの紹介、日本高齢者

大会の情報などから掲載し始めています。ぜひアクセスして下さい。

このサイトは、多くの仲間の声を反映して拡充していきたいと考えています。こんな内容を書いて欲しい、こんなページがあるからリンクして

これでも世界一か！ コロナ対応の国際比較が 最下位の日本

長く続いている新型コロナウイルスに対する緊急事態宣言も「解除」のきざしが見れますが、安倍政権のこれまでのような後手後手の対応では、何時再発するかわかりません。今こそコロナ撲滅対策を優先させ徹底したPCR検査と国民への対応が望まれます。

こうした中で、世界23カ国・地域の人々を対象にそれぞれの指導者の新型コロナウイルス対応の評価を尋ねた国際比較調査で日本が最下位でした。安倍首相は国会で実行の伴わない数字を示し「世界一」を誇示していましたが、「絵にかいた餅」であることがはっきりしました。

この調査は、シンガポールのブラックボックス・リサーチとフランスのトルーナが共同で実施した

欲しいという場合は、東京高連にご連絡ください。
サイトのURLは、<http://koueiki.main.jp/>



もです。政治、経済、地域社会、メディアの4分野での指導者の評価を指数化したもので、日本は4分野全部が最下位で、総合指数も最下位でした。調査は23カ国・地域の1万2592人を対象に、4月3から19日にオンラインで実施。

いま、新型コロナウイルス感染症対策に全力を挙げるべき時に、憲法の基本原則である三権分立と司法権の独立を脅かし、自分の意のままになる「検察人事権」を手に入れた、森友・加計・桜を見る会・河合議員の選挙違反問題などを闇に葬る「何でもあり内閣」の狙いが見え見えます。

東京高連会費納入 のお願い

東京高齢期運動へのご協力ありがとうございます。
会費未納の皆さんに心よりお願いいたします。